

緊張しながらも参加してよかった！面白かった！

各回、ゲストによる取組・最新情報のインプットは示唆に富んだもので非常に学び多く、さらに委員の方々の突っ込み、気の利いたキーワードがたくさん出て、とてもわくわくしアドレナリンが出っぱなしでした。会議の進め方も、発言者として緊張感があるものの自由かつオープン。若手からも意見を自由に取り入れ、日本の未来に対し多くの方が参加し議論を深めることへの本気度から、希望を感じました。そして、参加させていただきありがとうございました。

ただ、毎回平日の18時～20時半開催。ネット中継をしていただいていたものの現役世代（特に注目してもらいたい子育て世代）がリアルタイムでは参加しづらい時間帯だった。アーカイブが残っているので（ツイート参加ができないなどライブ感がないのはとても残念ですが）是非ご覧いただけたらうれしいです。



◇懇談会を通じ、あらためて、そして新たに大事だと感じたことキーワードたくさん！

人材の流動性、永遠のベータ版、プロマネの必要性、ベストプラクティスの横展開、第三の担い手、（お金の集め方 ex クラウドファンディング）、オープン化

■近視眼的にならず、10、30年後を大切に考え続けられる自分でありたい

考える課題は、満載。。。だけど。時に俯瞰を。

今回、個別課題を議論するとどの議題も大切に感じ、優劣をつける難しさを感じました。

私自身日常は、女性社長のことや大組織がどうやったら革新的取組に積極的になるかばかり考えており今回は、日々仕事では考えもしない国のリスクや社会保障について議題について議論し、とてもよい経験になりました。役人はじめ皆、個別課題や役割に真剣に対峙すると日々俯瞰して物事を見ることを後回しにしてしまうかもしれない。だからこそ、ときに考える時間を。ときに話し合える時間を意識的に作ったら自分ごとがひとつずつ増える気がします。そして私も今回をきっかけに、自分の役割を全うしつつ俯瞰する時間をつくりたいと思います。

■ 実行あるのみ。そして新たなプレーヤーが参加しやすく多様なプロジェクトがどんどん動き出す後押しを。

懇談会で、新たな取り組みを実践するゲストや委員の方々にたくさん出会えました。

今後、実践者を尊び、サポーターとして参加する人が増え、新たな成功事例をリスペクトしながら横展開をスピード感をもって進める流れがどんどん回ってほしい。ただ実績・資本力重視で、新たなプレーヤーを受け入れる土壌ができあがっていないと日々感じることもあります。

「永遠のベータ版」という言葉は発展性のあるポジティブな言葉だと感じました。新たな取り組みにリスクは伴うが、リスク低減のため安心感のある団体と新たなプレーヤーで組み合わせることチャレンジを生むなど、一工夫こらすだけで新しい取組促進につながる。仕組みで新たなチャレンジにつながりやすい。

目利きができる人が少ないことがもともとの問題だが、さらには 100%成功は難しい。リスクや失敗ばかりに焦点をあてず新しいチャレンジを促していきたい。チャレンジ枠を数値目標などを意志をもって持てばいい。私も実践者のひとりとしてチャレンジしていきたい。

最後に新しいものを受け入れやすいよう、日本全体で決定ボードの年齢・性別の多様化が必要だと思う。

2. 話したいこと (30年後に目指す社会を見据え)

➤ 政策の優先順位づけ、弱者の定義

- 弱者の定義づけと割合のフィックスができないか。

あやふやなまま議論が進められたが弱者を守ることを前提としたマジョリティの為の策も議論を深める

- サイレントマジョリティの意見をいかに見える化へのチャレンジ

今回、「意見を言い切ること」に対する恐怖感を覚えました(笑)。サイレントマジョリティの代表者だったような気がします。サイレントマジョリティに対し、意思表示をうまくしてもらう仕組みが大事

- 全体に限られた財布の中身の再配分を問う。

➤ 新しいチャレンジ、自治体事業の第三者への移管方法、国民全員野球の仕組み

- 善意の第三の担い手に、持続的に移管していく移行措置。
- 受益者のかかわりを細分化。

➤ 公務員の新しい在り方（立法のプロに加え、プロマネのプロ？）、評価の軸修正

- 100 点主義からのリスクテイク枠
- ベストプラクティスの横展開（効能は、スピードアップと予算の効率化）
ベストプラクティスを共有したくなる仕組みと真似したところをほめる仕掛け
- プロジェクトマネージャーは外部？役人の役割？在り方を見直し、評価の仕方を修正していくことも大事では

➤ 30 年後の主力な生産年齢層にどう育ててもらいたい

- 年金受給開始年齢の高齢化によるアクティブシニアも現役となるものの、将来的な競争力を考え若年層の成長の機会を優先したうえでの、新しい働き方の提示が必要では。

3. 次につなげる視点から何をすればよいか

1. 予算の積み上げでなく、限られた予算の優先順位・予算配分シェアを全員に問う。（各地でゲームを実施して体感する or ネットで世代・所得ごと分析、現状と 30 年後をイメージの 2 パターン）
2. 新しい担い手の基準づくりとチャレンジ枠の設定（実績・100 点主義でなく永遠のベータ版、チャレンジ促進とリスクヘッジの仕組）

懇談会で出たエッセンスが、多くの方の目に触れブラッシュアップされて、さらに発展していくととてもうれしいです。

